

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成24年3月末の取組状況	実施時期
1	地域に貢献する高齢者への支援	<p>子供たちの通学をサポートする高齢者グループを支援します。通学路に沿って自分の住む地区から隣の地区まで子どもたちと一緒に通学サポートする「みな孫見守り隊」。パトロールのために委託費として警備会社に支出していた費用を「みな孫見守り隊」の経費として地域に還元します。</p>	<p>単位老人クラブの23年度の事業計画によれば、地域の防犯パトロールや登下校時の見守り活動を計画している(週1回、月4回程度)のは27クラブであり、老人クラブの会合等を利用して協力を呼びかけました。併せてシルバーヘルパー講習会時に、見守り活動への協力依頼を行いました。</p> <p>また、地域の見守り隊の組織率が低い合志小学校、西合志中央小学校、西合志第一小学校区の下校時の巡回警備を業務委託により実施しています。さらに、新たな試みとして、合志市「安全安心の日」推進要綱に定める1日、10日、20日に、下校時間帯に合わせて、職員による青色パトロール車巡回を実施しております。</p>	1年以内
2	放置自転車撤去条例の制定	<p>放置自転車防止条例をつくり、住環境保全と自転車盗などの軽犯罪の防止に努めます。</p>	<p>平成22年9月30日の条例制定後、適宜放置自転車の撤去を行っております。</p>	1年以内
3	公共交通と温泉を使った安全・健康・交流支援 「湯ったり乗ったり弁天カード制度」	<p>ユーパレス弁天の温泉が100円で何時でも利用できる便利なカード「湯ったり乗ったり弁天カード」を販売します。公共バスの利用は、高齢者の交通事故を防止し、地球環境にもやさしく、温泉は心身の健康や、旧町市民の交流に役立つなど、たくさんの相乗効果が期待されるはずです。</p>	<p>みどり館と老人憩の家の入館料が100円に統一されたことを受け、平成23年7月から補助要綱を改正し弁天カード提示による入浴料を100円としました。</p> <p>このことにより、平成23年6月以前は弁天カード所持者数7人、入浴者数のべ約18人/月でしたが、7月以降は所持者数約22人、入浴者数のべ約220人/月と大幅に増加しました。</p> <p>平成24年3月31日現在の所有者数は21人、3月の入浴者数は延べ235人でした。</p>	1年以内

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成24年3月末の取組状況	実施時期
4	ごみの減量化とリサイクル促進	マイバック運動、資源物回収運動、ダンボールコンポスト等ごみの堆肥化の普及促進、リサイクルセンター等の誘致を積極的に行います。	<p>①マイバック運動について 平成23年6月よりレジ袋の削減に関する取組みを本格スタートさせました。大型スーパー4店舗と有料化の協定締結を行い、その他の事業所についてもマイバックの持参率を高めるためののぼり旗やポスターの掲示及びお客さんへの声掛け等、レジ袋の削減に取り組んでもらっているところです。今後も継続して、レジ袋の削減に取り組んで行くこととしております。</p> <p>②資源物回収運動について 平成23年度の子ども会、老人会等の資源物回収活動は延べ130回収程度になる見込みであり、10,100千円の補助を行う予定です。今後もごみの減量化に向けて継続して取り組んでいきます。</p> <p>③ダンボールコンポスト等普及促進について ダンボールコンポスト事業については、1,000人の市民に無料配布する予定でありましたが、650人程度の実績の見込みです。イベント会場やスーパーでの街頭活動、地区説明会、フォローアップ講座等を開催してきましたが、参加が少なく、残念な結果になっているところです。平成24年度からは、生ごみ処理機器設置補助事業(EM容器、コンポスター、電動式生ごみ処理機器の設置補助)に統合し、生ごみの減量化に向けた補助事業を更に周知啓発していくこととしております。</p> <p>④リサイクルセンター等の誘致について 現在、同様の施設を2市2町で構成する菊池環境保全組合の環境美化センターで運営しています。構成市の兼ね合から非常に難しい状況ではありますが、資源物回収の視点からリサイクルセンターについて検討を行います。</p>	1年以内

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成24年3月末の取組状況	実施時期
5	地元中小企業支援 地域が頑張れる条例の制定	地元企業への発注を原則とする条例をつくります。	平成22年9月に条例を制定し、合志市中小企業等活性化会議を立ち上げ、現在まで7回の会議を開催しました。 平成23年度当初に、産業実態調査を実施し市内中小企業の現状を把握しております。その後、調査結果を分析したうえで、具体的な中小企業等振興策の検討を行い、現行施策の拡充や新規施策を平成24年度予算に反映させております。	1年以内
6	まちづくりに市民のアイデアを！ チーム「宝箱」	合志市に住むことがより楽しくなるような、色々なアイデアを出せる市民の組織を作ります。	合志市の将来に関して、市長マニフェストの各種事業の中で、企業等が得意とする分野あるいは関心のある分野において、創意工夫により地域社会発展のため、多方面からの指導・助言をしていただくためのシンクタンクの組織を想定しております。当面は市から委任する正式な団体という位置付けは行わず、組織への参加はオープンとし、何人でも参加できるような組織とすることを前提に制度設計を検討中です。	1年以内
7	手弁当 合志市が大好き 検討委員会の設置	住民参加の手段として「市民自主参加型検討委員会」を作ります。	自治基本条例に基づいた参画と協働によるまちづくりの原則を踏まえ、市全体や地域に関係する計画、立案、検討に対し、関係市民に参画してもらうよう、必要に応じて検討委員会を設置することとしています。	1年以内
8	健康に結びつく様々な活動を融合させた健康づくり	行政職員がコーディネーターとして活躍すれば、スポーツや文化活動、ボランティア活動など多様な取り組みを健康に結びつけることが可能です。	様々な活動を融合させた健康づくりを推進するため、平成24年4月に新たに健康企画班を設置しました。 また、出前講座での健康教育として、保健師や栄養士を派遣し生活習慣病予防などの啓発を行っています。さらにスポーツ推進委員が、健康づくりの一環とした「合志市元気体操」を考案し、老人クラブや地域の会合に出前講座として普及啓発を行っています。	1年以内

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成24年3月末の取組状況	実施時期
9	みんなで祝おう100歳の誕生日	<p>高齢者祝い金は、現状では1万円の祝い金で、100歳以降毎年1万円が支給されています。</p> <p>年間20名にも満たない対象者であり、市民みんなで祝う価値があると思うので10万円に増額します。</p>	<p>多年にわたり社会の発展に寄与された高齢者に対し、敬老祝金等を贈呈することで、長寿を祝い、労をねぎらうとともに、市民の敬老思想及び高齢者の生活意欲の高揚を図るものです。</p> <p>なお、実績等については次のとおりです。 (平成22年度実績)</p> <p>①22年度、100歳の誕生日を迎える方に、敬老祝金10万円とお祝いメッセージを12名の方に贈呈しました。また、承諾を得て広報にも掲載しています。</p> <p>②22年度に限り、101歳以上の方に、10万円から昨年度まで贈呈した祝金を差し引いた額を20名の方に贈呈しました。 (平成23年度実績)</p> <p>本年度、100歳の誕生日を迎えられたる方に、敬老祝金10万円とお祝いメッセージを贈呈しました。また、承諾を得て広報に掲載しました。</p> <p>(平成23年度当初贈呈予定者14名 贈呈済12名 予定者のうち2名は100歳の誕生日前に死亡)</p>	1年以内
10	障がい者の自立支援と優しさを持つ企業への公的支援の検討	<p>人と人が支えあう施設などの運営を支援し、一人でも多くの雇用につながるよう公的な支援制度をつくります。</p>	<p>第3回障害者就労・運営支援制度策定委員会(平成23年5月27日開催)において、障がい者の雇用や就労につながる支援を行う事業を含め、障がい者の社会活動又は地域活動を促進する事業を対象とする障害者社会活動推進事業補助金交付要綱により補助申請団体等を募集することが決定されました。</p> <p>上記交付要綱に基づき、7月に広報こうし及び市ホームページで申請団体の募集を行った結果、2団体より申請があり、第4回策定委員会(平成23年8月17日開催)において、応募団体の事業内容等を審査した結果、補助金交付を適当と判断され、障がい者の雇用や就労につながる支援を行う事業、研修会・講演会等の事業を実施する2団体に対し補助金の交付決定を行い、障がい者の社会活動を支援いたしました。</p>	1年以内
11	楽しい子供会活動活性化支援体制づくり	<p>子供会活動自体が保護者の負担になっているため、活動を行政が積極的に支援するチームをつくるとともに、行政の能力を活かした人的支援を行います。</p>	<p>平成23年11月に子ども会育成会長会議を開催し、その際に各単位子ども会に対しアンケート調査を行った。</p> <p>その中で運営に関する助言・指導、各種活動に対する人員派遣を要望する声が多く、今後は市の人材バンク制度などを活用し、各子ども会からの要望に応じて支援が出来るような体制作りを行っていきます。</p> <p>また、24年度より三つの木の家自主事業にてジュニアリーダー(中学生ボランティア)の育成も行う予定で、そちらの方とも連携し、各子ども会へ派遣、協力ができるような体制を整えていきたいと考えております。</p>	1年以内

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成24年3月末の取組状況	実施時期
12	給食費振り込み制度の検討	旧西合志町では振り込みが可能ですが、旧合志町では当番制になっています。それぞれにメリット・デメリットがありますが、よりよい方法を皆さんとともに検討します。	23年度中に市内10校の小中学校長、PTA会長等、保護者より口座引落制度移行への理解が得られました。保護者から口座振替依頼書の提出がほぼ完了し、口座登録作業を実施中です。平成24年5月(4・5月分)より、市内全小中学校において、口座引落を開始します。	1年以内
13	教師力の向上:がんばる先生が頑張れる環境をつくる	子どもたちのために、自己研さんに励む先生たちに市が研究費用を支援し、ひいては子どもたちの学力・体力向上を目指します。	平成23年度は、市内小中学校10校で「がんばる先生支援補助金」を活用した事業を実施しました。取組状況としては、県外の学校研究発表等の研修、外部講師を招聘しての校内研修、先生の資質向上のための図書購入などの事業を実施したところです。平成24年度についても、引き続き同内容で事業継続を行っていくこととしております。	1年以内
14	子育て中の働く人たちが、より働きやすい環境整備	働く人たちのリフレッシュ施設である体育館、グラウンド、研修室など一般に開放する公共施設の使用料を見直します。	施設使用料のうち、市内料金でばらつきがあった料金については、安価な方に合わせ、平成23年4月1日から実施しています。また、総合センターで行う市主催行事について、要望に応じた一時託児の運用についても平成22年10月から行っています。	1年以内
15	スピード感のある行政経営「まちづくり戦略室」	まちづくりの課題解決のため、企画立案・実施まで一貫して行う市長直轄の部署を作ります。	平成22年7月の組織改正により、まちづくり戦略室を設置いたしました。今後もまちづくりの課題解決のためにスピード感のある行政経営に努めていきます。	1年以内
16	地域を守る消防団便りの発行	身近に地域防災を担ってくれる消防団や自衛消防隊の活動状況を広く市民の皆さんにお知らせすることで、防災意識の高揚と消防団活動の維持・拡大を図ります。	消防団の役割や活動について、定期的に広報誌に掲載し、市民に対して消防団の重要性を認識してもらうことで消防活動の理解・協力をお願いしたところです。	1年以内

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成24年3月末の取組状況	実施時期
17	広報「こうし」:より面白く充実した情報の提供	市の課題を明らかにし、事業を起こす前から市民と意見を交換することのできるような双方向の情報交換ができる広報誌づくり・情報受発信を進めます。	<p>双方向性の紙面づくりを目指し、「市民の活躍や話題」を積極的に掲載するよう努めました。</p> <p>また、広報紙では補えない「役立つ情報」などをホームページやツイッターで随時発信し、市民の話題や市の魅力など動画の発信を行ないました。</p> <p>ホームページについては、平成23年11月1日に、市民だけでなく市外の人も対象とした情報提供のコンテンツを新設するなどリニューアルを実施しました。</p> <p>今後、紙面のあり方を検討し、「人の紹介」など市民参加型の紙面づくりを目指した取り組みを進めていきます。</p>	1年以内
18	次世代へ引き継ぐための公共投資	身近な住環境の整備に積極的に取り組みます。高齢化が進むと住宅や土地を手放すことも考えなければなりません。誰もが住みたくするような、より財産価値をあげることのできる公共事業に積極的に取り組むことで、若い世代へ財産を引き継ぐことが可能となります。	<p>泉ヶ丘、すずかけ台、杉並台、永江等の築年数が相当年経過した団地内の道路や側溝については、計画的に整備を進めております。</p> <p>また、子どもからお年寄りまで誰もが安全、安心で楽しく過ごせるよう、老朽化した施設を改築更新し、公園を適正に維持管理していくとともに、次世代へ引き継ぐ財産となるよう、積極的な整備に取り組んでいきます。</p>	1年以内 H22～25年度
19	子どもたちが安心して通学できる環境をつくる	各小中学校の通学路の防犯灯設置率を100%に引き上げます。	<p>通学路の防犯灯設置については、平成23年度までに各小中学校から設置要望があったところについて対応したところです。今後も各学校等と協議のうえ、財政状況を勘案しつつ、計画的な通学路の環境整備を進めて行くこととしております。</p>	2年以内
20	動物と共生する条例策定	飼い主の責任と義務を明文化し、ペットとともに快適に暮らすことのできる環境と社会を作ることを目指し、市民と一緒に条例をつくりまします。	<p>条例の内容についてはすべて既に合志市美しいまちづくり条例に規制条項があり、さらに、動物の鳴き声は環境基本法、犬の放し飼いについては熊本県動物の愛護及び管理に関する条例もあります。</p> <p>よって、新たに条例を制定する事は既存条例等の内容と重複することとなり、また現在においても既に合志市美しいまちづくり条例に基づき文書や、看板、広報等で対応しているため、新たに条例の制定は必要ないと考えます。上記のとおりペットのマナー面関してはカバーできてますが、ペットの愛護について検討していきます。</p>	2年以内

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成24年3月末の取組状況	実施時期
21	子ども会議による遊び場確保	子どもたちの意見を活かし、一緒に作っていく子ども参加型の遊び場確保が必要です。大学との連携で得られるまちづくりのノウハウを活かしながら子ども会議を開き、子ども達と一緒に遊び場構想を練り、事業を実施します。	平成23年10月14日、平成24年3月26日に子ども会議を開催、市長と各中学校の生徒代表との意見交換を実施しました。平成24年度についても、同程度で事業実施を予定しています。	2年以内
22	ボランティアに感謝の気持ちを表し活動を広げる表彰制度	ボランティアに対する正当な評価が得られる仕組み、市民への理解を促し、ボランティアの輪を広げ、感謝の気持ちを表す表彰制度を作ります。	平成23年10月19日に合志市ボランティア表彰実施要綱を制定しました。市ボランティア連絡協議会に推薦を依頼し、市社会福祉協議会主催の「ふれあい館フェスティバル2011」におけるイベントとして合併5周年の節目の年に第1回表彰式を11月20日に実施しました。被表彰者は3団体・2個人で、表彰式の様子を11月21日の市ホームページに掲載し、広報「こうし」には平成24年1月号に記事を掲載しました。	2年以内
23	合志市のお宝発掘：人材マップの作成	合志市には、魅力ある人たちがたくさんいます。優れた人材は合志市の宝です。色々な特技や能力を地域に活かしたい人、教えてもらいたい人、そんな人たちの橋渡しをする人材マップを作ります。	平成23年12月に「合志市人材(財)バンク設置要綱」を制定し、自らが持つ特技や能力を地域に活かしたい、教えたい、と思っている人や団体を登録する合志市人材(財)バンクの制度を設けました。登録者をホームページで公表し、学びたいけど講師が見つからないと思っている市民に情報提供を行ない、両者の橋渡しの役割を担って予定です。平成24年3月31日現在で1団体(4人)、2個人の登録が行われました。	2年以内
24	学校給食 おいしいご飯で健康な体をつくる	子どもたちが家庭用炊飯器を使って、クラスごとに温かご飯を自分たちで炊き上げ、お茶碗に一人ひとりがよそう学級給食を進めます。	炊飯器給食を実施するために必要な設備等の検討を行ったところ、炊飯ルームや電源拡張工事など多額の経費が必要となります。また平成22年度で農林水産省の補助金が廃止されております。以上のことから、当初は補助事業で実施することを想定しておりましたが、補助事業が廃止されたことにより、市単独での財源確保が必要となるなど、マニフェスト作成時と状況が大きく変わっておりますので、見合わせたいと考えております。	2年以内

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成24年3月末の取組状況	実施時期
25	さわやかな学習環境をつくる	受験前の中学3年生のクラスを対象にクーラーを整備します。	23年度「学校施設環境改善交付金」として事業採択されたことから、3月に予算措置を行い、24年の夏休みから利用できるよう、工事発注準備をしています。 具体的には、合志中学校6教室、西合志中学校3教室、西合志南中学校7教室の計16の普通教室に空調設備を設置予定です。	2年以内
26	合志市女性センター「かすみ草館」設置	男女共同参画社会の実現をみんなで推進するまちに合志市女性センター「かすみ草館」を設置します。合併した市には、旧町ごとの歴史資料館があります。二つの歴史資料館を一つに統合し、不要となった施設に女性センターを設置します。	歴史資料館と郷土資料館の統合の可否について、文化財保護委員会にて審議いただき、現時点では行わないとの答申を得ております。市男女共同参画推進懇話会及び市女性連絡協議会「まちなつと“セラヴィ”」の意見としては、時間に気がねなく自由に使える施設を希望されているため、施設管理の面からは課題がのこります。また、検討してきました歴史資料館・元法務局後跡施設等については、現在使用されている団体の関係や女性センターの位置付け(①女性の駆け込み寺的なワンストップで困りごとを解決できるセンター②公民館的な会議等ができる施設③女性団体の事務局業務ができるセンター)により施設の場所、市職員等の配置等の課題があります。再度懇話会等の意見を聞き、住民の意見を踏まえ検討のうえ市としての方向性を出していきます。	2年以内
27	歴史・伝統文化の共有:歴史探訪バス「まちなつめぐり食べさる紀バス」の運行	春夏秋冬年4回のまちなつめぐり食べさる紀バスを走らせ住民交流とお互いの理解を促進させます。	平成23年度から、ふるさと探訪、歴史探訪とあわせ郷土料理などを提供する「ふるさと探訪まちなつめぐりバス」の運行を実施しました。年4回開催し、延べ107人が参加しました。好評につき本年度も実施します。	2年以内
28	市民・議会・行政の協調による事業仕分け	市民、議会、行政の協調により、事業仕分けを行います。無駄な事業費のカットは、市民、議会、行政が共に進めるべきものです。市民第一に二元代表制の中でお互いの責務を明確なものとしします。	平成23年5月に「合志市事業仕分け委員会設置規則」と「合志市事業仕分け実施要綱」を制定し、市民、議会議員、行政職員の代表による計24人の仕分け委員を選任しました。8月21・28日の2日にわたり、2班に分かれて16事業を対象に仕分け作業を行ない、廃止(不要)1件、民間・市民による実施1件、市実施(現状)1件、市実施(改善)13件という評価になりました。この仕分け結果をもとに市としての対応を協議し、平成24年度予算編成に取り組みました。 また、傍聴者等に実施したアンケートによって、来年度も内容をより充実して実施する予定です。	2年以内

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成24年3月末の取組状況	実施時期
29	消防署の誘致	合志市・菊池市・大津町・菊陽町で構成する菊池広域連合消防本部の中で、人口が集中し、また、構成市町村への出動を考えると、圏域の東西をつなぐ大津西合志線、南北を結ぶ住吉熊本線の交差する合志庁舎前は候補地として最適です。関係市町長との協議を積極的に進めます。	当面は現在のままの4署体制でいくところであり、西消防署については、今年度に建替えの設計を行い、平成24年度から工事に着手して参ります。	在任期間中
30	黒石原演習場への災害対策拠点づくり	現状の広大な自衛隊演習場に熊本都市圏の災害対策拠点としての機能を持たせ、そこにいたる災害対策緊急避難道路の整備、災害対策緊急医療機関としての熊本再春荘病院、菊池恵楓園の機能強化、緊急医療ヘリポート等、都市近郊に位置する自衛隊施設を市民のための有効な施設となるよう国に強く働きかけます。	交渉が防衛省の複数課にまたがり、継続的に働きかけを行ってきました。市民の方々からの要望や苦情も市が間に入ってつなげて来ました。 自衛隊においても災害時の拠点として花立・黒石原演習場を位置づけられています。さらにそれを進めていく上でも医療機関との連携は重要であると考えます。今後も関係機関への働きかけを継続していきます。	在任期間中
31	合志警察署の誘致	大津警察署管内で最も犯罪件数の多いのが、光の森周辺の菊陽町、合志市です。警察業務の現状や市としてのポテンシャルを考えれば警察署の誘致も不可能ではありません。警察官としての経歴、熊本県議会議員、国会議員秘書としての経験を活かし、実現に向け動きます。	平成23年12月に熊本市の政令指定都市移行に伴う警察署の管轄区域の見直し意見書に対して、「合志市に警察署設置を要望する会」から熊本県警察本部に対し、要望書を提出しました。その後、合志市の警察行政の置かれた現状を市民に理解してもらうため、「合志市に警察署を設置する」署名を実施し、県警察本部へ提出する予定です。(H25.5.8に27,028人分の署名提出)	在任期間中
32	自家用車に頼らずに済む公共交通網の整備	現行の循環バス、環状バス、乗り合いタクシーなど公共交通の充実を高齢社会の現状にあったきめ細かな事業展開を進めていきます。	平成23年7月からレターバスを左右回り各5便に再編したダイヤ改正を行なうとともに、同8月から一便あたり利用者数が少ない循環バス路線3路線を乗り合いタクシー車両による運行に変更し、事業の効率化を図りました。 今後は、3か年間の実証実験結果を踏まえ、運行ルート見直しや運賃改定による収支率改善を図りながら、利用しやすい形態の地域公共交通体系を早急に確立します。 また、おでかけサポーターを活用し、利用者それぞれの生活パターンに応じた移動手段を提案するなど、きめ細かな対応により周知啓発を図ります。	在任期間中

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成24年3月末の取組状況	実施時期
33	こうし大学、こうし高校の積極的な誘致	市には、高校、大学のグランドをはじめ、公的研究施設、さらには職に結びつく工業団地等があります。また、交通アクセスも良く、大学・高校などの立地に大切な要素が整っています。このような恵まれた環境を持つ合志市に似合う高校、大学の誘致を積極的に進めていきます。	高校、大学そのものの誘致となるとハードルがかなり高いので、大学等の「キャンパス」としての誘致という位置付けで積極的な活動を図って参りたいと考えております。 その官学連携の一つとして、農業に関心のある大学生に農村集落に入ってもらい、農業体験及び地域活動に積極的に参加し、体験を通して、若い世代に農業を知ってもらおうとともに、農業に活気をもたらすことで地域活性化につなげようと考えています。その活動拠点として上庄区の農家の空き家をリフォームし、大学等の「合志キャンパス」という位置付けを行い、今後の事業展開を図っていくこととしております。 これは、「農家の下宿屋制度」の延長線上にある事業として推進していきます。	在任期間中
34	地域の発展バランスを考えた土地利用検討委員会の立ち上げ	新市建設計画で約束された県道大津植木線バイパスの整備促進と、従来の製造事業所だけではなく、研究施設や農業を活かした企業誘致など、地域特性を活かした土地利用の検討が必要です。	県道大津植木線バイパス整備促進については、県による用地説明会や地権者との境界立会い等に協力しているところです。 また、土地利用検討については①竹迫地区②辻久保～黒石地区③北熊本スマートインターチェンジ周辺の3つのエリアに関し、学識経験者、市議会議員、地域企業及び地域代表等で構成する検討委員会を計5回開催し、全体構想を取りまとめたところです。 この検討委員会での結果を踏まえ、人々が安心して安全に暮らせ、地域格差のない活力に満ちた「健康都市こうし」の創出を図るため、土地利用の指針として計画書を策定しましたので、平成24年度は、三つのエリア構想のバランスを図りながら、計画書に基づいた具体的な土地利用に着手することとしております。	在任期間中
35	都市計画の見直しができる市	合志市の市街化区域は1割にも満たず、日々の生活をおくるための商業店舗も簡単には建てられない状況です。既存市街地に隣接する市街化調整区域の土地利用をもっと使いやすくする必要があります。さらに、今必要なのは自分たちの住む町の土地利用を自分たちが考え、実行できることです。調整区域の規制緩和に向け、熊本県・熊本市・周辺市町との積極的な協議を進めます。	平成23年2月に合志市、菊陽町、益城町、嘉島町合同で、集落内開発及び地区計画制度の要件緩和、柔軟な運用に関する要望書を県に提出したところ。県からは「個別の対応を含めて検討します」との回答を受けています。 さらに、上記4市町で構成している市街化調整区域活性化連絡協議会において、4市町の土地利用の更なる活性化のため「熊本都市計画区域東部地域活性化ビジョン策定支援業務」(平成24年度完了)を委託し、ビジョンを基に、県とより具体的な協議を行います。	在任期間中

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成24年3月末の取組状況	実施時期
36	農業と農地を活かした住環境の整備を制度化	<p>現在ある地区計画制度を見直し、市街化調整区域の農地に新たな付加価値が付くような仕組みをつくります。家庭菜園つきの集合住宅建設ができるよう地区計画制度を見直せば、土地所有者としては土地を手放すことなく安定した収入の確保ができ、借り手にしても市街化調整区域であるというデメリットがメリット(地価の安さと豊かな農地)に変わります。</p>	<p>平成23年2月に合志市、菊陽町、益城町、嘉島町合同で、集落内開発及び地区計画制度の要件緩和、柔軟な運用に関する要望書を県に提出したところです。県からは「個別の対応を含めて検討します」との回答を受けています。</p> <p>さらに、上記4市町で構成している市街化調整区域活性化連絡協議会において、4市町の土地利用の更なる活性化のため「熊本都市計画区域東部地域活性化ビジョン策定支援業務」(平成24年度完了)を委託し、ビジョンを基に、県とより具体的な協議を行います。</p>	在任期間中
37	魅力ある農業と起業化	<p>個々の農地、個々の技術を集結し、より安定した農業経営ができるような新たな農業組織・形態の検討と、農業生産法人の誘致など、農家所得の安定を図り、農業を魅力あるものとする農業政策を進めます。</p>	<p>地域農業と企業とが連携することによる「新しい産業創出」の取り組み事例として、新日本製薬株式会社との甘草の試験栽培を引き続き実施中です。現時点での生育状況は良好で、合志市が栽培適地と判断できる材料が揃いつつあります。ほぼ100%輸入に頼っている甘草の国産化が実現すれば、先進的な産業となる可能性が期待でき、今後、加工品への展開や地域ブランド化に向けたプロジェクト立ち上げなどを計画しています。</p> <p>また今後、新規導入作物の栽培等、積極的な取り組みを行う農家を登録する「モニター農家制度」を活用し、企業や大学、研究機関等との共同研究をさらに進め、魅力ある地域農業をより円滑かつ有効に推進することとしています。</p>	在任期間中
38	合志市の特性を活かした新しい産業の創出 健康ファクトリー構想	<p>健康産業(農業・バイオ)は、合志市の特性に合った産業であり、魅力的なものとなるはずで、身近なものに付加価値をつけて、健康をキーワードに農業、工業、商業が密接な関係を持ちながら大きな広がりを見せることができます。また、健康産業、健康食材、医療品・医薬品、農業、大学、研究機関等を集積させ、単なる観光ではなく、中長期滞在型の集客施設、県内はもとより広くアジア圏域から人を呼ぶことのできるような「おもてなしの産業づくり」エリアの検討を進めます。</p>	<p>地域農業と企業とが連携することによる「新しい産業創出」の取り組み事例として、新日本製薬株式会社との甘草の試験栽培を引き続き実施中です。現時点での生育状況は良好で、合志市が栽培適地と判断できる材料が揃いつつあります。ほぼ100%輸入に頼っている甘草の国産化が実現すれば、先進的な産業となる可能性が期待でき、今後、加工品への展開や地域ブランド化に向けたプロジェクト立ち上げなどを計画しています。</p> <p>また今後、新規導入作物の栽培等、積極的な取り組みを行う農家を登録する「モニター農家制度」を活用し、企業や大学、研究機関等との共同研究をさらに進め、魅力ある地域農業をより円滑かつ有効に推進することとしています。</p>	在任期間中

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成24年3月末の取組状況	実施時期
39	公的医療機関と連携した県北の健康・医療拠点づくり	熊本県北部の中核的な医療センターとしての期待が高まる再春荘を核とし、菊池病院、恵楓園との連携を強化し、健康を支える医療拠点づくりを進めます	健康ファクトリー構想と合わせて事業展開していくこととしております。	在任期間中
40	健康総合グラウンドの整備促進	既存のグラウンドが市民の要望に合ったものであるか検証し、多くの人の利活用ができるような仕組みと、グラウンド整備を進めます。	平成23年度に2回の会議を開催しました。平成24年度中には、市内グラウンド利活用のための答申を出すこととしております。	在任期間中
41	御代志～光の森線：100万都市公共交通構想	100万人の熊本都市圏にLRTやBRT環状線を走らせ、JR光の森駅と熊電御代志駅を結ぶ公共交通体系を整えます。	合志市としてはコミュニティバスの運行開始により1日数本の路線でJR光の森駅と熊電御代志駅の結節を図ったところです。また、LRTやBRTによる環状線の実現に向けた取組みについては、熊本市電の益城町延伸や熊本空港へのアクセス計画なども視野に入れ、今後「熊本都市圏協議会」の中で協議していくこととしております。	夢・アイデア
42	国・県の用地を賢く使う、発想の転換事業	堀川の沖野遊水地など、たとえば、ペットが、伸び伸びと走り回れるスペースや子ども達がサッカーや野球を楽しむにも十分な広さがあります。	沖野遊水地は、堀川の洪水調節のために確保してあります。多雨の時期に堀川が増水した際、遊水地へ越流しやすい構造となっています。このため、仮にグラウンド的な活用対策を講じたとしても、警報機設置や利用者への緊急避難誘導など、行き届いた安全対策を講じる必要があります。現在、安全管理を含めた様々な問題点の整理と市における有効活用の可能性について、河川管理者である熊本県と協議しているところです。	夢・アイデア
43	農家の下宿屋制度	産学官連携の一つとして、大学農学部や農業に関心のある大学生を下宿させます。バイトとして農業を手伝ったり、子どもたちの勉強を見てやったり、時には婚活にもなるかもしれません。若い世代に農業を知ってもらい、農業に活気をもたらす一つの制度として検討していきます。	就農希望者を対象に地域の遊休農地を活用して就農実地体験を実施するとともに、その活動拠点として空き家をリフォームし、就農への意欲をかきたて、後継者不足の解消及び就農車の拡大を図っていくこととしております。その活動拠点となる上庄地区の空き家改修は完了しており、まず地域住民が手軽に取り組める「食」と「農」を活かしたイベントを年度当初に計画しているところです。具体的には、県内の新規就農者による実地体験はもちろんのこと、地域の農業者との意見交換や包括連携協定を締結している大学と連携し、地域素材を活かした弁当作り等が出来ないかなどの協議を進めています。	夢・アイデア

市長マニフェスト 進捗状況

NO	事業名	事業説明	平成24年3月末の取組状況	実施時期
44	空家を活用したみんなが集う店づくり制度	地産地消と地域での生きがいづくりを目的として、地域住民で経営する指定日だけの店づくり。地域住民の憩いの場として、生産農家との触れ合いの場として、空き家や空き店舗の有効活用として、商売・笑売・生売。	まず農家の下宿屋制度における就農実地体験等を成功をさせることが、その後の地域活性化策としての広がりを生んでいくのではないかと思います。また、県内の新規就農者と地域の農業者及び大学と連携し、地域素材を活かした弁当作り等が出来ないかなどの協議を進めています。市としても活気のあるコミュニティ形成を視野に入れ、様々な手法を模索していきます。	夢・アイデア
45	農業による新たな雇用機会の創出	例えば「アニメ村」。アニメ原画書きを業とする若い世代を受け入れる村を作り、収入の足りない部分を農業でカバーする。若い世代の夢と、新しい農業雇用形態を築く取り組みです。	熊本県の補助事業を活用し、声優界で有名な「田中真弓」氏とヴィーブル子ども劇団との共演を、平成24年2月26日の子どもフェスティバルで開催しました。さらに、3月4日には、熊本県が主催する「文化の力大賞コンクール」に出場し、子ども劇団のPRも行ったところです。今後は、「アニメと農業」や「アニメと文化」などを融合させ、合志市の活性化に繋がる事業推進に努めていきます。	夢・アイデア
46	ドラえもんのような職員づくり	必要な物がすぐに出てくるドラえもんの不思議な四次元ポケット。色々な視点で物事をとらえ、みんなの夢をまちづくりに活かすことのできる行政職員。市民の要望に優しく、素直に応えることができ、フットワークの軽い行政職員・組織を目指します。自由に使える研修費を用意し、自主的な研修に取り組みせ、市民ニーズを的確に捉え、スピーディな対応ができる四次元ポケットを持った職員づくりを目指します。	テーマごとに意欲のある市職員をメンバーとする研究チームを設置し、地方分権時代における独自の地域活性化やユニークなまちづくり等の研究に取り組むため、職員ボランティア募集を実施しております。今後も引き続き職員募集を行うとともに、部署にとらわれず、柔軟な発想で、より効率的で良質な市民サービスを提供するための研究を積極的に行っていくような組織づくりを検討していきます。	夢・アイデア
47	東熊本経済圏構想	熊本市、菊陽町、大津町等との人口100万人規模の経済圏を将来的な姿として捉え、広域的なまちづくりを検討することが必要です。	広域的なまちづくりを検討するため、3市9町1村で構成する「熊本都市圏協議会」への問題提起等を行い、協議会において議論する方向で進めているところです。併せて道州制も視野に入れた整理も必要であるため、その情報収集及び検討についても進めていくこととしております。	夢・アイデア